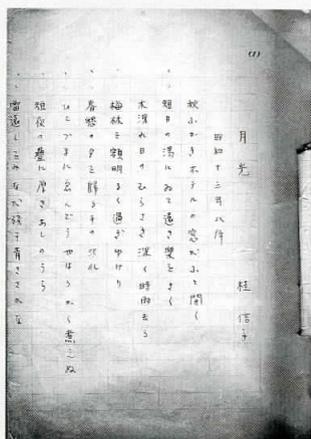
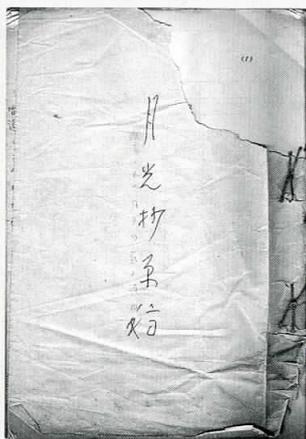
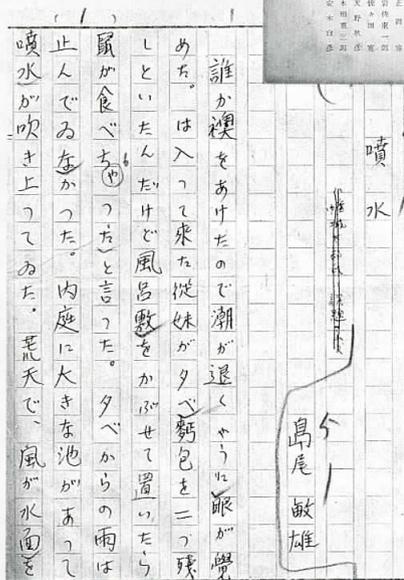
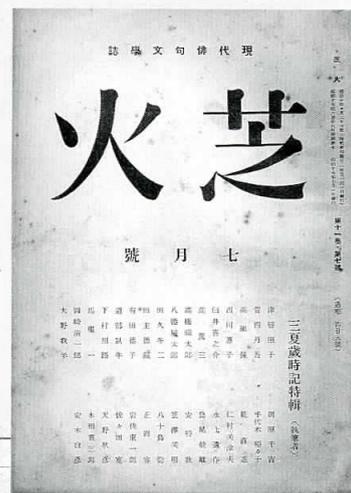


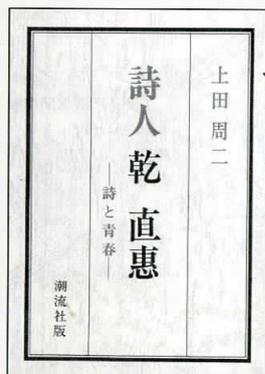
日野草城を師とした俳人・八幡城太郎は、1953（昭和28）年に俳句雑誌「青芝」を創刊しました。城太郎前住職の青柳寺は「青芝」発行所となり、また度々句会も開かれ、「多摩の文学空間」とも思える広がりが生まれました。城太郎の戦前からの文学交流が基になって結成された「青芝友の会」は、詩人・小説家・研究者など多彩な会員が集まりました。本展では城太郎の俳句活動を軸に、「青芝友の会」の会員との文学活動や交流を、2003（平成15）年に寄贈された「青芝」八幡城太郎文庫の資料を中心に構成し、新たに発見された小説家・島尾敏雄の原稿「噴水」と俳人・桂信子の句稿「月光抄」も紹介いたします。



**桂 信子「月光抄原稿」**  
日野草城の同門だった桂信子の句稿。表題は八幡城太郎の筆による。  
桂信子が戦災を避けて八幡城太郎に送った句稿の一部と思われる。



**島尾敏雄「噴水」原稿と掲載雑誌「芝火」第11巻第7号**  
昭和17年7月1日  
原稿の題名脇には「八幡城太郎氏に課題されて」のことが書きが添えられている。原稿「噴水」の所在と掲載年月日が未詳であったが、今回確認できた。



「青芝友の会」会員だった詩人、乾直恵と田中冬二の評伝。  
上田周二『詩人 乾直恵—詩と青春』1982年5月 潮流社  
和田利夫『郷愁の詩人田中冬二』1991年11月 筑摩書房

**俳句研究雑誌「陣流風」第60冊**  
昭和17年9月10日  
岩佐東一郎、城左門を中心に発行された、俳句雑誌。

## 展示構成

- 1 八幡城太郎の俳句活動—「青芝」創刊以前
- 2 二つの原稿—島尾敏雄「噴水」と桂信子「月光抄」
- 3 「青芝」創刊と「青芝友の会」の人びと
- 4 版画家川上澄生と「青芝」
- 5 多摩の文学空間と「青芝」の活動